

発行
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018
札幌市中央区北18条
西15丁目3-19 安藤方
電話・FAX 011-556-8834
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第97号 2019.5.1
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会
東京事務所
〒107-0052
東京都港区赤坂
9-6-29-309
音響計画(株) 霜田気付
電話 03-6804-1058
FAX 03-6804-6058



日本・ポーランド
国交樹立100周年
記念事業
(1919~2019)

《第90回例会》朗読と交流の会

入場無料

※予約不要、どなたでも参加できます

第9回 「午後のポエジア」

2019 6/1 (土) 14:00 ~ 17:00



北海道大学クラーク会館3F 大集会室2 (札幌市北区北8西8)



テーマ 私のポーランド

第9回目となる「午後のポエジア」。今回は日本・ポーランド国交樹立100年を記念して、日本人とポーランド人の出演者がポーランドへのさまざまな思いを、詩の朗読、音楽、映像、語りなどを通して自由に表現します。改めてポーランドを見つめ直してみませんか。

第一部 ポーランドの絵本の紹介、古今の詩(ノーベル賞詩人ヴィスワヴァ・シンボルスカ[1923-2012]、ノーベル賞候補詩人ズビグニェフ・ヘルベルト[1924-98]、「蒸気機関車」「アルファベット」などの児童詩が今も愛唱される詩人ユリアン・トゥヴィム[1894-1953]、ポーランド・ロマン派三大詩人の一人ユリウシュ・スウォヴァツキ[1809-49]ほか)やポーランドに思いを寄せる自作詩の朗読など

第二部 楽器の演奏や歌をまじえ、ポーランドの雰囲気を楽しみます。飛び入りも歓迎

交流会 スナックや飲み物で自由に交流をお楽しみください。

共催 ポーランド広報文化センター、後援 (公財)札幌国際プラザ



お問い合わせ 電話 090-2695-3880 (小林)
mail: hokkaidopolandca@gmail.com



写真(左・中)ワルシャワ(右)クラクフ

「午後のポエジア」に参加して

嵩 文彦

どこか懐かしいポーランド音楽

徳田 貴子

10



M

Mrs.



M

私とポロネーズ

坂田 朋優

小さなころからショパンの音楽が好きだった私が、ポーランドの先生に初めてレッスンを受けたのは大学4年の終わりでした。大学の客員教授として2年間日本に滞在していたハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ先生が任期を終える前に、所属のクラスに関係なく、希望者にはレッスンをしていただけることになったのです。私はすぐに希望を出して数回のレッスンを受けることができ、それ以外もできる限り多くのレッスンを聴講しました。



帰国される前には学生たちとお別れ会が開かれ、最後にみんなで踊ったのがポロネーズでした。長老から踊るという習慣にならって先生方からペアで踊り始められたのが印象的でした。日本人ばかりで、本来の踊りとは少し違ったかもしれませんが、雰囲気に触れることができただけでも貴重な体験

「午後のポエジア」の風景から

であったと思います。

ポロネーズは、ホゾーニ(chodzony)という農民の間で踊られた舞踊に関係していると説明されることも多く、ホゾーニはポーランド語の chodzić(歩く)という言葉に由来しています。ポロネーズというと、ショパンの「軍隊ポロネーズ」のような堂々とした威厳や誇りを示すものとイメージする方も多いと思いますが、感傷的なメロディーで書かれたポロネーズもあります。それを代表するのが、ミハウ・クレオファス・オギンスキの「祖国よ、さらば Pożegnanie Ojczyzny」で、作曲されたのは第二次分割後の1794年でした。華やかなポロネーズと感傷的なポロネーズは一見すると対照的でも、そのどちらにも祖国を思う気持ち、愛国的精神といったものが込められているのに変わりはないと思います。

今回「午後のポエジア」で演奏したのは、アンジェイ・ワイダ監督の映画『パン・タデウシュ物語』で使われていたヴォイチェフ・キラル作曲のポロネーズ(ピアノ編曲版)です。初めてこの映画を見た時から、その旋律が忘れられず、いつか弾いてみたいと思っていた作品でした。(さかた・ともまさ)



①「森へ行きましょう Szła dziewczeczka」②トゥヴィム「おおきなかぶ Rzepka」③同「一、二の、三 Raz, Dwa, Trzy」
(参考 ブログ記事)【WEB 検索】空への軌跡・吟遊記 第90回例会午後のポエジア



ポーランド&ニッポン歳時記 30



実りの年

今年、向かいのアカシアの枝によく二羽の鳩が飛んできます。その梢に届きそうな我が家のベランダで、以前二匹の雛が巣立っていったのを思い出します。自分の人生の果実を見られるのは素敵なことです。

gałąź akacji

アカシアに

znów chyba są u siebie

また二羽鳩の

te dwa grzywacze

里帰り

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

za oknem słońce

レポートの

na biurku usypiają

山と居眠り

prace studentów

陽は外に

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

夏雲や泣く子わめく子稚児の列
薔薇の名はマリーアントワネットかな
さまざまに夏花のはしやぐ雨きたる
岩見沢市、霜田千代麿